

事業評価シート（平成25年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	介助員派遣事業		
事業担当	学校教育部 子ども教育相談センター		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'04	4 子ども時代に生きる力を身につける環境をつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒、保護者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
障がいのある子どもたちが、学習活動や日常生活での支援を受け、学校（園）生活を円滑に送っています。		障がいのある子どもたちが学校（園）生活を円滑に送れるようにするため、学習活動や日常生活を支援する介助員を派遣します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	介助員派遣人数				単位	人
	説明・算定式						
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	目標	70	71	72	73		
	実績	70	72	75			
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	介助員に係る学校評価				単位	点
	説明・算定式	「派遣により、支援を必要とする児童生徒への対応に効果があった」とする評価(5段階)の派遣している小中学校からの回答の平均値					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	目標	4.4	4.4	4.6	4.6		
	実績	4.6	4.6	4.7			
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	目標						
	実績						
進捗状況	①：予定どおり						
	遅れている理由						
平成25年度の主な取組と成果							
介助員の派遣により、障がいのある子どもたちが学校（園）生活を送れるようにきめ細かな支援を行いました。							
平成25年度の検証結果	A：成果があがった						

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	障がいの多様化、重度化する中で、きめ細かな支援が必要であり、保護者、学校からの要望も強くあります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	継続して介助員を派遣することにより、支援を必要とする子どもたちに対して、きめ細かな支援を行うことができます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	教員の追加配置が難しい状況の中、きめ細かな支援ができるように学校を支えることが求められています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	子どもの状態や学級の状況等を考慮し、より有効な活用に努めます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		障がいのある子どもたちが学校(園)生活を送れるように、子どもの状態や学級の状況等を考慮し、介助員の派遣のあり方を検討する必要があります。		

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
事業内容		特別支援学級介助員の派遣	特別支援学級介助員の派遣	特別支援学級介助員の派遣	特別支援学級介助員の派遣
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	44,538	44,299	48,031	51,087
事業費 (A)		44,538	44,299	48,031	51,087
執行率 (%)		88.41	93.95	94.02	
内訳	職員 (人)	0.70	0.75	0.65	0.65
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		5,673	6,012	5,167	5,079
フルコスト (A+B)		50,211	50,311	53,198	56,166

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成27年度の取組方針	障がいのある子どもたちが学校(園)生活を円滑に送れるようにするため、介助員の派遣のあり方を検討していきます。
課長コメント	障がいのある子どもたちがより豊かな学校(園)生活を送るために介助員の派遣はなくてはならない事業です。また、障害者の権利に関する条約が批准され、インクルーシブ教育が推進されると、交流・共同学習も増えることから、更に、拡充していく必要のある事業だと考えます。